

公益財団法人勤労者福祉ネットワーク2026年度事業計画書

(2026年3月18日 第50 会理事会承認)

はじめに

2026年は、戦後80年を経て、新たな時代の方向性が問われる年です。先の総選挙では、与党が憲政史上初めての規模で単独過半数を得るという結果となりました。政治のかじ取りが大きく動く可能性がある一方で、その先にどのような社会が描かれるのか、私たちはいまだ確かな見通しを持っていません。さらに、世界各地で緊張が高まり、国際情勢が不安定さを増す中、その影響は資源価格や為替動向を通じて、私たちの暮らしにも波及することが懸念されます。積極財政路線が一段と進めば、中長期的には円安圧力が強まり、物価上昇に賃金が追いつかない状況が続くことも想定されます。家計負担の増大や社会保障制度への影響など、暮らしを取り巻く環境は依然として不透明さを増しています。

このような時代だからこそ、協同と連帯の力が重要です。徳島が生んだ世界的偉人、賀川豊彦の「友愛・互助・平和」の理念に学び、「人々の連帯を軸とした共助・共生の福祉社会」の実現をめざしてまいります。

なかでも、**少子化が進む中での学童保育の充実**は喫緊の課題です。放課後の安心・安全な居場所を確保し、切れ目のない支援体制を整えることは、地域の将来を支える基盤づくりにほかなりません。また、近年、気候変動が深刻化する中、吉野川の自然を守り、**ラムサール条約登録をめざす取り組みを支援**することも、次世代への責任であると考えます。

「中期ビジョン2030」を道標に、環境保全と地域の持続可能性を両立させつつ、「すべては、その笑顔のために」のスローガンのもと、弛まぬ挑戦を続けてまいります。

【2026年度重点課題】

(1) 「子育て」「育ち」支援の充実

- ① 学童保育の充実で切れ目のない保育環境を整備する。
- ② 県下全中学校での「赤ちゃん授業」実施により、命の尊さや思いやりの心を育む。
- ③ 家事支援を加えた「ファミサポプラス」により、産前産後や多胎児家庭を支援する。

(2) 「あわ～ず徳島」と「くーぼん丸。」の更なる拡充

地域活性化をめざし、自治体と連携を強化するとともにスマホアプリ化で利便性を高め、「あわ～ず徳島」会員2万人の早期達成を図る。さらに、「くーぼん丸。」を拡充し、地域に根ざした「頼れるパートナー」とする。

(3) ハートフルゆめ基金とくしまの更なる充実

- ① 休眠預金の資金分配団体をめざし、地域課題に取り組む団体への助成を通じて共助の輪を広げる。
- ② 寄付者の大切な思いを未来へ託す贈り物「遺贈寄付」を、地域の支え合いへつなげる。

(4) 多文化共生の推進と自然環境保護活動の支援

ユニバーサル・カフェ『つながり』を拡充し、外国人住民と地域が支え合う社会を育む“共生の徳島”をめざす。また、「とくしま自然観察の会」が取り組む、吉野川ラムサール条約登録を支援し、自然環境の保護を次世代へつなぐ。

(5) 「友愛・互助・平和」理念の継承

「鳴門市賀川豊彦記念館」が世界協同組合遺産に選ばれた。賀川豊彦の理念を財団運営の礎とし、『友愛・互助・平和』の精神で地域福祉を推進していく。

1. 機関会議の開催

当財団の事業が、県民の労働者福祉に寄与できるよう、そのことを職員ひとり一人が共有し認識したうえで事業に取り組むため下記を基本に機関会議などを開催します。

(1) 評議員会の開催

第 14 回評議員会の開催

と き：2026年6月23日(火)

00:00～開催予定

※第4号議案で提案

ところ：徳島市内

議 題：①2025年度貸借対照表、損益計算書、貸借対照表及び損益計算書付属明細、財産目録承認の件(2025年度事業報告並びに事業報告の付属明細含む) / ②その他

(2) 理事会の開催

5月理事会の開催(事業報告・決算)

と き：2026年5月～6月 開催予定

ところ：労館502会議室(予定)

議 題：①2025年度事業報告(案)承認の件 / ②2025年度事業決算(案)及び監査報告承認の件 / ③第14回評議員会招集の件 / ④その他

9月理事会の開催(上期事業報告・補正予算)

と き：2026年9月 開催予定

ところ：労館502会議室(予定)

議 題：①2026年度上期事業進捗状況並びに下期重点課題の取り組み承認の件 / ②2026年度補正予算承認の件

(3) 常務会の開催(常務執行役員以上)

と き：毎月第2火曜日 午前10時より

ところ：財団小会議室

議 題：財団運営に係る全ての課題を協議

(4) 常勤役員会の開催(部長以上)

と き：毎月第1火曜日 午前10時より

ところ：財団小会議室

議 題：財団の組織運営に係る課題を協議

(5) 事業委員会の開催(常勤役員・所長ほか)

と き：毎月第3火曜日10時30分より

ところ：労館502会議室(予定)

議 題：各事業部報告と予定・新たな企画提案 / 財団事業に係る諸課題を協議

(6) スタッフ全員会議(全職員)

と き：1・4・8月の年3回開催(原則)

ところ：その都度決定

議 題：財団方針の共有と連携

(7) 衛生委員会(衛生委員)

と き：毎月第3月曜開催

ところ：財団会議室

議 題：各事業部の衛生管理に関する定例報告健康診断やストレスチェックの計画、実施など

(8) 職員互助会(互助会各セクション代表)

と き：議事発生の際会長が招集

※不定期

ところ：財団会議室

議 題：職員の福利厚生などに関する諸課題

(9) コンプライアンス委員会(コンプライアンス委員)

と き：年1～2回 ※不定期

ところ：財団会議室

議 題：職員研修の企画立案、相談窓口業務の推進などコンプライアンスに関連する事案の検討



2. 財団のガバナンス強化推進と中期ビジョン2030の策定

2022年度より、ガバナンス強化推進を掲げ、総務セクションのさらなる強化を軸に、次の10年を見据えた持続可能な組織運営の体制づくりに取り組みました。

2023年度には、理事会、評議員会での協議・承認を経て、執行役員の新任、業務管理・会計システムの見直し、コンプライアンス委員会の設置、コンプライアンス相談窓口・内部通報制度相談窓口の開設、ガバナンス強化に伴う規程の見直し・新設などに取り組みました。これらの取り組みにより、同年10月から新たな仕組みと体制がスタートしました。

2024年度は、2023年10月に施行された規程をベースに、常勤理事会、常勤役員会、コンプライアンス委員会での協議を重ね、コンプライアンス・ハラスメントに関する相談窓口の開設、周知、広報・啓発に取り組みました。

さらに、2025年3月、今後のさらなる拡大を見据えた5年後の「あるべき姿」を展望し、ガバナンス強化を基盤とした「NW中期ビジョン2030」を策定しました。

2026年度も、この中期ビジョン2030に基づき、各種取り組みを推進していきます。

3. 人材育成

(1) 財団事業企画コンペの実施

職員がアイデアを出し合い、自ら企画立案～実施までを担うことで、財団職員の個人のスキルアップにつながるとし、2018年より毎年「企画コンペ」を実施しています。

2025年度も1月に実施し、財団30周年記念をテーマに、最優秀賞×1組、優秀賞×2組、特別賞×1組を選びました。企画の実現に向け、職員が中心となって取り組みます。

(2) 賀川豊彦学校への参画

2026年度も認定NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会（理事長：久積育郎）による「賀川豊彦学校」（第5期）が開校します。企画段階から財団も協力しており、今期も財団から各部署から職員が登録し、賀川豊彦の顕彰、継承に向けた人材育成に取り組みます。

(3) 各種スキルアップへの支援制度

引き続き、四国大学、労福協、とくしま社会運動資料センター、ポリテクセンター、賀川豊彦記念・鳴門友愛会など、関係団体や専門団体が開催する研修会などを積極的に活用するとともに、日常業務のスキルアップにつながるセミナーなどへの参加に対し支援を行います。

(4) 防災士の養成

南海トラフ大地震への対応は待ったなし。労働者福祉に携わる職員として業務中の被災も想定し、一人でも多くの命を守ることに繋げることを目的に、職員全員の「防災士」資格取得に取り組んでいます。

(5) 新人研修の実施

2026年度も賀川豊彦記念館で新人研修を行います。大きなテーマを「賀川豊彦の精神を継承しながら、変化する時代の流れの中で、その時代に即した受益者とニーズを即座に判断し、的確なサービスを創造していく使命の確認」とし、賀川豊彦記念館での研修並びに労働者福祉の歴史と役割、また財団の中期ビジョン2030などについて、研修を行う予定です。

(6) スタッフ全員会議の実施

財団では、4月・8月・1月の年3回、財団役職員全員が参加できる「スタッフ全員会議」を開催しています。2026年度、全員会議は、「財団設立30周年記念事業の一環」として、6月の評議員会と同時に実施を予定している「吉野川河口干潟のラムサール湿地認定へ(仮)」と題した記念講演(オンライン)の視聴と、今回3回目となる「3つのテーマと選べる6つのgroup」(少人数でのフィールドワークで職員同士の良好な関係づくり繋がる)での研修を実施したいと考えたいと考えています。予算措置として2025年1月分と2026年4月分を充て役職員と日頃業務上親交のある関係団体・個人との交流会を予定しています。



公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク
スタッフ All staff meeting 全員会議 研修会
 August 2025
 3つのテーマと選べる 6つのGroup!

今年の「8月度スタッフ全員会議」も、連年にご志願いただき、フィールドワーク付きテーマ別研修会を実施いたします。テーマ・研修などにより3つのテーマ、6つのグループで実施。皆さんの都合の良い日程、興味のあるテーマなどから、1つを選んで受講してください。(3年間で1回できるよう選択)
 座学による知識の習得とフィールドワークによる体験により、皆さんの社会課題に対する意識の向上をめざします。

～ 社会課題に挑む！ 座学とフィールドワーク～
 定員 各 Group 15名程度

人も物も活かされる街づくり 共生社会へ
 NPO 法人太陽と緑の会
 Group ① 11月4日[火] 13:00～16:00
 Group ② 11月18日[火] 13:00～16:00

コウノトリが舞う美顔輝く未来に 環境保護 1
 認定 NPO 法人とくしまコウノトリ基金
 Group ③ 11月5日[水] 13:00～16:00
 Group ④ 11月12日[水] 13:00～16:00

再発見!! 吉野川河口 環境保護 2
 とくしま自然観察の会
 Group ⑤ 9月11日[木] 14:00～16:00
 Group ⑥ 9月26日[金] 14:00～16:00

NETWORK



20250911「とくしま自然観察の会」



20251105「とくしまコウノトリ基金」



20251118「太陽と緑の会」

4. 多文化共生社会の実現

(1) 多国籍交流の場

2021年にスタートしたユニバーサルカフェ『つながり』。「外国人が日本一活躍する“共生社会の徳島創造”へ向け事業拡大をめざします。

2025年2月新たに設置された「ユニバーサルカフェ『つながり』運営委員会」で交流会の開催や拠点の開設などについて事業の方向性を協議しながら進め、2026年度は、これまでのゲストスピーカーによる交流会や、日本の伝統文化体験を通じた交流、徳島の魅力を再発見する交流など、さらなる充実をめざします。





(2) モンゴル国との交流

2018年6月から始まった財団とモンゴル国の交流、2019年7月には**モンゴル国のゾリグ財団**と私たち徳島県勤労者福祉ネットワークとの間で、**友好交流協定の締結**が実現しました。その後、新型コロナウイルスの台頭により、中止、延期を余儀なくされましたが、2022年8月には交流を再開し、国際友好交流の基礎となる話し合いを行うことを目的に第3次訪モンゴル団を、2023年9月には交流を具体化するために第4次訪モンゴル団を派遣し、その結果をもとに同年10月～11月2週間の短期ですが、ゾリグ財団からプログラムコーディネーターを研修生として招きました。2024年6月29日～7月3日の間、第5次モンゴル国訪問交流団がゾリグ財団を訪れ、お互いの財団の事業などについて理解を深めました。2025年7月12日～16日の第6次訪問交流団の取り組みでは、**ゾリグ財団**での「オンライン日本語教室」開設の検討や、「つながりカフェ」で扱う、フェアトレード商品として、ヤクウール100%の靴下の商品化が実現しました。2027年度は、「オンライン日本語教室」開設に向けた取り組みの具体化を進めます。

5. 「平和なくして福祉なし」…平和への取り組み

NETWORK 総務部

2022年2月、「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹写真展徳島実行委員会」を立ち上げ、写真集の企画、編集、出版、配布などを通じて「平和をテーマ」にした活動に取り組み、一定の成果をあげました。2023年末、実行委員会は一定の役割を終えたとし、「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹徳島連絡会」に改組（事務局は当財団）しました。

そして、2026年3月、「7月4日の徳島県平和の日」県条例制定をめざす取り組みと、徳島市に「徳島大空襲資料館（仮称）」を整備することをめざし、とくしまピースネット80が立ち上がりました。

2027年度も私たちは、「とくしまピースネット80」、「ヒロシマ被爆アオギリⅡ世平和祈念植樹」の協力団体として、「平和なくして福祉なし」のスローガンとともに、平和に向けた取り組みを続けてまいります。



ヒロシマ被爆アオギリⅡ世
平和祈念植樹徳島連絡会



6. 財団設立30周年記念事業

当財団は1997年に設立されました。来年は設立30周年、節目の年となります。記念誌の発行（主に直近5年間の活動を振り返るもの）、記念関連イベント、交流会の開催などについて、検討を開始します。

具体的には、記念誌編集プロジェクトチームの結成、2026年6月の評議員会での30周年記念講演会・交流会の開催企画、

I . 中小企業サポート（公益目的事業）



1. あわ～ず徳島（徳島勤労者福祉サービスセンター）



(1) 加入事業所・会員数の増加に向けて

円安の長期化やエネルギー価格・原材料費の高騰、物価上昇の常態化に加え、インボイス制度や電子帳簿保存法への対応、社会保険料負担の増加など、いわゆる**実質的な負担増が中小企業経営を圧迫**しております。さらに**最低賃金の継続的な引き上げや慢性的な人手不足、外国人就労者の受け入れ・定着支援への対応**など、経営課題は一層複雑化・高度化しており、**企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております**。加えて、消費の伸び悩みや取引価格への転嫁の難しさも重なり、**経営の先行き不透明感は払拭されておられません**。

こうした中、あわ～ず徳島では、**2026年度は2030年での会員2万人という目標に向け、将来を見据えた大きな転換の一年と位置づけて**おります。昨年度一年をかけて開発したスマートフォンアプリを本年4月より本格稼働させ、**会員サービスの利便性向上と情報発信の迅速化、事務の効率化**を図ります。また、現在取りまとめを進めている**アンケート調査結果を踏まえ、物価高騰や人件費増大、慢性的な人手不足といった喫緊の課題に即したサービスの再構築を進めて**まいります。加えて、自治体職員等を対象としたサービスの検討も継続します。そして、**SNSやホームページを活用したデジタル広報体制の強化により、時代に適応した加入促進と組織基盤の強化**を着実に推進してまいります。

(2) 完全自立化に向けた会議・連絡会の開催

①『自立化対策会議』の継続開催

2022年度にスタートした『自立化対策会議』を引き続き開催し、2030年での完全自立化（会員2万人達成）に向け、**公・労・使の財団構成団体の委員で協議を重ねて**まいります。

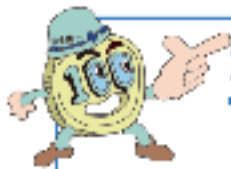
②『市町村連絡会』を通じた全24市町村との連携強化

地域経済の活性化に寄与する取り組みを推進するため、『市町村連絡会』を引き続き開催します。人口減少が深刻な社会課題となっており、各市町村ともそれぞれ、**人口流出を食い止め、転入を促し、就職、定住、子育て環境の充実など好循環の創出**に向けた取り組みを進めています。連絡会では、**各市町村の取り組みを共有し、市町村の取り組みがより深化、拡充するよう、あわ～ず徳島やネットワークの仕組み（ファミサポ、マリッサなど）を使った解決の糸口を検討**します。

(3) 地域活性化へ向けた取り組み

① 2024年度からスタートした、「**子育て応援**」制度における会員本人の職場復帰時のプレゼント企画（事業所には会費の還元を実施）として、現在は商品券をプレゼントしていますが、今後、**子育て関連商品を扱う会員事業所の商品をカタログ化し、選択制で提供**できる仕組みを引き続き検討してまいります。**会員間のつながりを促進し、地域内経済の循環にも貢献**できると考えます。

② **あわ～ず徳島プラスワン**として、すでにスタートしているワンコイン労災に加え、経営者にスポットを当てたサービスの開発を引き続き検討します。



全福ネットあんしん労災 (全福ワンコイン労災)

事業主の**経営リスク**を軽減し、従業員の**福利厚生**の充実を図る

国の労災保険に上乗せする共済です！

「全福ネットあんしん労災」は、(一社)全国中小企業労働者福祉サービスセンター(全福センター)加盟のサービスセンターの会員企業等の従業員が、業務上または通勤途上の災害で亡くなられたり、身体障害(後遺障害)を被った場合、国の労災保険の給付に上乗せする団体別の労働災害共済です。



全福ネットあんしん労災
ホームページへ

掛金は1口
100円/月
従業員1人

補償は最高
3,000円
まで選択可能

会員
事業所
限定

(4) 地域連携・地域貢献事業の推進

- ① JA グループとの新たな連携企画の検討
- ② とくしま自然観察の会との連携で、シオマネキ自然観察の会との連携による干潟観察会の開催(子ども対象)
- ③ とくしま自然観察の会との連携で、自然保護活動への会員参加促進(干潟清掃やラムサール条約干潟登録へ向けた活動)
- ③ とくしまコウノトリ基金との連携事業として、レンコン掘り体験の実施
- ④ フードバンクとくしまとの連携で、フードバンク支援を組み込んだイベントの実施



しあわせ
幸福の青いカニ 9/10 吉野川河口住吉干潟でのシオマネキ観察会に参加

干潟の観察会への参加や清掃活動などにご協力

あわつきいしはシオマネキ、ヨシ(葦)の根元に繁殖する若少(2008年に絶滅危惧Ⅱ類)なカニの仲間です。
シオマネキは吉野川河口の葦(ヨシ)の生えている干潟で生まれ、生後8ヶ月頃まで体がとても綺麗な青色をしています。だんだん大人になると青色は消え、オスは片方だけハサミが大きくなり、くくなります。
この葦(ヨシ)の干潟が無いと、シオマネキは生きていけないため、私たちはこのシオマネキの保護(干潟の保護)に取り組んでいる「とくしま自然観察の会」(世話人代表 井口利枝子さん)の活動に賛同し保護活動への協力を始めます。
あわ~ず徳島の あわつきいし あるいは従業員の家族、会員の皆様の会社や団体、ずっとずっと続いていこう、若い世代を守り育てていくことができれば・・・あわつきいし「幸福(しあわせ)の青いカニ」として、会員の皆様の笑顔のシンボルとして、これからも皆さんと一緒に守っていききたいと思えます。




観察会の様子

とくしま自然観察の会 HPへ
干潟の観察会や清掃活動の様子
はホームページでご覧ください



(5) 会員サービスのデジタル化の取り組み

全会員が平等にサービスを受けられるよう配慮しながら、時代の流れに遅れないよう、一歩ずつサービスのデジタル化を進めてまいります。

① ホームページの拡充

2024年にリニューアルしたあわ~ずのホームページ。会員の声を聴きながら、さらに使いやすいホームページをめざします。

② 電子申請への移行

電子申請については現在も、公式ホームページから健康診断、宿泊、インフルエンザワクチン、スキルアップ、マラソンの補助金など、**電子メールやデジタルフォームでの受付が可能**です。今後は、さらに使い勝手の良い電子申請の方法を展望し、将来的には共済など現在申請書類(紙)による処理が行われている分野についても、**電子化に向けて連携先(全労済共済等)への働きかけを進めてまいります。**

③ SNS の活用

現在あわ～ず徳島では LINE、TikTok、Instagram、YouTube でのショート動画の配信を行なっています。これまで、ショート動画の更新やイベント告知の発信は、LINE 会員（2月25日現在911人）を通じてのみ可能でしたが、4月からスマホアプリがスタートすれば、アプリ使用の会員全員（初年度登録5000人目標）に通知が届くようになります。

④ サービスのスマホアプリ化へ向けた経緯と今後

2024年度より、あわ～ず徳島のサービスのアプリ化を展望し、様々な方法を模索しました。かねてより検討してきた全福センター推奨の「電子会員証」は、アプリ化までの道りは遠く、今だに、web ブラウザを利用した「電子会員証」で、レスポンスや信頼性に欠け、サービス低下への懸念から、やむなく断念。既存のシステム（キントーン）活用によるアプリ化も検討しましたが、開発費、ランニングコストが高額になるため現実的ではなくこちらも断念。そんな中、デジタル申請システムの先進県である長崎県のITコンサルの紹介で、島根県のIT企業とともに勉強会を実施。共同開発という形で、1年あまりの開発期間をかけ、2026年度（4月1日）からのスマホアプリ稼働となりました。現在使用中の会員管理システムとの連動（ユニテック）、共済の決済の仕組み（全労済協会）など、複雑な連携、連動が必要な部分は今後の課題となりますが、このスマホアプリ化を機に、会員の利便性の向上、会員拡大につなげてまいります。

祝 あわ～ず徳島 スマホアプリ化

ベータ版で一足早くご体験ください！

あわ～ず徳島アプリβ版：インストール&会員登録ガイド

β版 使用期間：2026年3月31日(火)まで

ステップ 1 アプリのインストール

対象者：iPhone ユーザー iOS16以上
※Androidは正式リリース時に対応予定です。

- 1 「TestFlight」をインストールする
左のQRコードを読み取る、または、AppStoreで「TestFlight」を検索し、インストールします。
- 2 「TestFlight」を起動し、利用規約に同意する
- 3 「あわ～ず徳島」アプリをインストールする
右のQRコードを読み取り、TestFlightで「インストール」をタップします。
- 4 「あわ～ず徳島」アプリを起動する
ホーム画面のアイコンをタップし、ログイン画面が表示されれば、インストール完了です。

ステップ 2 新規会員登録

- 1 新規登録を開始する
アプリのログイン画面で「新規利用登録はこちら」をタップします
- 2 情報を入力し、仮登録メールを受け取る
必須情報を入力して利用規約に同意すると、仮登録メールが送信されます。
- 3 メールを確認して登録完了
届いたメールのURLを開くと本登録が完了し、利用開始できます。

※注意：仮登録メールの発出人 nccreply@kumoto-top-app.com からメールが届きます。

(6) 「とくとく券」のサービス充実～スマホアプリで利用可能に～

2026年4月1日より、スマホアプリが本格稼働します。とくとく券のサービスも、アプリで利用可能となり、これまでの会員カードと冊子を持ち歩かなくても、サービス提供店でお店に設置のQRコードをスキャンするだけで利用できるようになります。

(7) 会員向けセミナー・交流イベント等の開催

2026年度も、毎年好評な、「観光地引き網体験と海岸クリーンアップ」、「事業所対抗ソフトバレーボール大会」等の実施に向け準備を進めています。また、昨年スタートした、夏休み企画「青ガニ探検隊」についても、吉野川河口干潟のラムサール湿地認定へ向けた周知も絡めた企画として、徳島自然観察の会との連携で継続してまいります。

「あわ〜ず徳島ゲーム大会 (e-sports)」については、中四国のサービスセンターとの連携で実施を検討します。

① 新入職員ビジネスマナー研修

と き：4月14日(火) 14:00～16:00

と ころ：アスティとくしま 第4会議室

② 地引き網体験&海岸清掃

夏予定

③ 夏休み企画「青ガニ探検隊」

夏～秋を予定

④ ソフトバレーボール大会

秋ごろを予定

⑤ Life Ending Support Seminar (終活セミナー)

予定



2025.7.6 地引網体験と海岸清掃



2025.9.23 事業所対抗ソフトバレーボール大会



2025.8.27 青ガニ探検隊

(8) 全福センター (全国中小企業勤労者福祉サービスセンター)、中・四国内サービスセンターとの連携

全福センター中・四国ブロック協議会主催の「運営委員会」、「事務担当者研修」に参加し、中・四国のセンター間の連携 (e-スポーツ大会の共同開催、プレゼント企画の共催など)、情報交換などに努めます。

(9) 中小企業退職金共済制度・小規模企業共済制度の普及・推進活動

委託事業主団体として、普及・推進に当たり、2026年度も新規共済契約、追加加入手続きに努めます。

Ⅱ. 子育てサポート (公益目的事業)



「こどもまんなか社会」の理念が地域に深く根付くなか、子育てを取り巻く環境はより多様化し、複雑な支援が求められています。子育てサポート部は、これまでに構築した支援の枠組みをベースに、関係各所との「結びつき」をより強固なものとし、**子どもたちがどこにいても守られ、健やかに育つ環境づくり**を加速させます。

「すべての子どもの笑顔のために」を普遍のテーマとし、乳幼児から思春期、そして自立へと続く切れ目のない支援を具現化するため、次年度も「体験」と「居場所」の充実を図ります。次代を担う子どもたちの未来を拓くため、以下の目標に全力を注ぎます。

1. 全自治体中学校での「赤ちゃん授業」実施と地域交流の促進

2. 放課後児童クラブの公設民営化による安定運営の実現

3. こども図書館（車）導入に向けた推進



1. ファミリー・サポート・センター事業



徳島の地で歩みを重ねてきたファミリー・サポート・センター事業は、地域の支えの中で発展してまいりました。子育て環境や働き方が変化する中、**求められる支援も多様化**しています。これからも時代に即した柔軟な対応を心がけ、**すべての子育て世帯に寄り添う存在**として役割を果たしてまいります。

● **徳島ファミリー・サポート・センター** (徳島市・小松島市・勝浦町・上勝町・石井町・神山町・佐那河内村)
利用補助制度により**依頼会員の登録が増加**しているものの、**提供会員が増えず**、サポートが追いつかず苦勞しており、提供会員にこれ以上の**負担がかからないように配慮**等努力しています。各市町村イベント時には出張登録ブースの参加回数も増えてきており、**ファミサポ周知**へ繋がっています。今後も積極的に市町村へのイベントに参加させていただき**提供会員獲得に向けて**も頑張っています。意見交換会「茶話会」も引き続き継続し会員同士の親睦に役立てていきたいと思ひます。また、**ハートフルファミサポ基金**を利用する**依頼会員も増えて**きており、スムーズに対応できるよう今後も児童相談所、市町村、他のファミサポ等で密に連携を図ってまいります。

● **板野東部ファミリー・サポート・センター** (藍住町・北島町・松茂町・板野町・上板町)
ファミサポ事業の周知と会員の増加を狙い、**交流会の開催や地域の子育てイベント**での登録説明会を行っています。11月のいもほり交流会では19名の新規登録がありました。提供会員向けのファミサポよっといDay!!を町報で告知し板野郡内5町でそれぞれ一回づつ開催しましたが、提供会員の新規登録者は1名にとどまりました。開催時期、内容、参加費などをよく検討し、引き続き**新規会員の獲得を目指**してまいります。特に提供会員については講習会受講者を中心に声掛けをし、適性を見極めてスカウトするなどして動ける提供会員を増やしていきたいと思ひます。また、昨年同様に小学校の保護者への会員講習会のちらし配布を続け、**地域でのサポート活動への理解を進め**てまいります。

● 阿南ファミリー・サポート・センター（阿南市）

昨年度より開始された**利用補助制度が定着**し、新規の依頼会員数および問い合わせ数は着実に増加しています。また、地域リーダーが主導する「ウエルカム阿南交流会」等の活動により、転入者や低年齢児を持つ**保護者のコミュニティ形成も活発**に行われてきました。しかし、利用の広がりと共に、サポート依頼の内容はより多様化・複雑化しています。これまでは提供会員の「量」の確保に注力してきましたが、現在は**変化するニーズ**に対し、提供会員がいかに自信を持って対応できるかという「**質の向上とマッチングの深化**」が重要な局面を迎えています。今後は、提供会員が抱く不安を解消し、より高度なサポートにも柔軟に対応できるよう、**事例検討会やスキルアップ研修の充実**を図ります。あわせて、依頼会員に対しては丁寧なヒアリングを継続し、**双方の期待値のズレをなくす**ことで、事故のない安全な活動を目指します。「助けてほしい」と「助けてたい」がより高い精度でつながり、提供会員が誇りを持って活動に寄り添えるよう、地域リーダーと連携しながら、より**強固なサポート体制を構築**してまいります。

● 鳴門ファミリー・サポート・センター（鳴門市）

今年度5月より**サポート依頼が増え**てまいりました。既存の提供会員さんに複数の依頼を受け持っていたいただき、どうかサポートができています。提供会員も**わずかな入会にとどまっている**ため、サポートをしていない**両方会員、提供会員の掘り起こし**に力を入れていきたいと思えます。鳴門市内の支援拠点、保育所、民生児童委員、助産師の皆さんと協力しながら開催している“**鳴門市赤ちゃん授業**”も**丸8年**になります。今以上に地域の中でファミサポが必要不可欠な場所となるよう、またより良い支援ができるよう関係機関と連携しながら努力してまいります。

● 美馬ファミリー・サポート・センター（美馬市・つるぎ町）

昨年度は、**学校や学童保育への日常的な送迎依頼が増加**し、**活動件数の伸長**につながりましたが、本年度より親族間での対応が可能となり、結果として双方にとって望ましい形で支援が完結した事例もありました。**来年度は開設 20 年**という節目を迎えます。小学生への対応をより柔軟に行える体制づくりを進めるとともに、原点に立ち返り、**自宅で託児が可能な提供会員の発掘**にも取り組みます。自宅預かりに伴う不安要素については共に考え、丁寧に対応しながら、そのメリットを活かせる環境整備を図ります。また、徳島県による「**初回 2 時間無料**」補助制度は十分に周知されているとは言えず、**利用は限定的な状況**です。今後は**効果的な広報**を行い、**真に支援を必要とする方へ確実に情報を届ける**ことで、ファミリー・サポート・センターの存在意義の向上と活動件数の拡大につなげてまいります。

● 阿波市ファミリー・サポート・センター（阿波市）

今年度、**阿波市ファミサポ開設 15 周年**を迎え、ファミサポ同窓会や記念事業開催を通して、会員や地域の人たち、関係機関等に感謝の意を表し、さらなる事業推進に対する支援と協力をお願いしました。記念事業では、阿波市ファミサポの歴史を実感できる写真の掲示や人気キャラクターショーを開催し、1000人近い来場者に向けて周知を図ることができました。昨年度から**阿波市のファミサポ利用補助が始まり、エシカル補助金との2本立ての補助**ができるようになりましたが、**依頼件数は年々減少**しています。特に小学生

の保護者の利用が顕著に減少している現状を受けて、**依頼促進に特化したチラシを作成し、市内全小学校とこども園に配布**しました。今後、保護者が気軽に安心して預けることができるようにお試し託児体験会を実施し、新たな依頼会員が増えるようにしていきます。**提供会員数も微増にとどまっている**ため、広報活動をより活発化させていきます。また、会員が参加したくなるような**提供会員向けの新たな交流会**を企画し、参加を促して会員増を目指していきます。

● **かいようファミリー・サポート・センター**（海陽町）

海陽町では、**移住者の増加や祖父母世代の就労**により、身近な**支援を受けにくいご家庭が増えています**。近年は在宅育児中の方が、リフレッシュ目的で定期的に利用されるケースも増加しており、無理のない子育てを支える一助となっていると感じます。今後も利用しやすい雰囲気づくりに努めてまいります。一方、**提供会員およびE会員の不足は長年の課題**です。今年度より**町広報への定期掲載を開始**し、交流会等ではファミサポを知らない方の参加も見られるようになりました。今後はファミサポを知らない層へ向けて、チラシや広報内容を工夫するとともに、新規会員の獲得や休眠会員への働きかけを行い、活動再開につなげていきます。

● **吉野川市ファミリー・サポート・センター**（吉野川市）

地道な**広報活動や利用料補助**などで、**問い合わせや活動依頼が少しずつ増えて**きました。また一時預かり事業との併用で、**多くの保護者が「託児」終了後「ファミサポ」へつなぐという利用法**を行ってくれています。在宅育児をされている保護者の方は「クーポン券」も利用できることが、ファミサポ利用をしてみようという動機につながっていると考えられます。しかし、まだ提供会員不足が否めません。ボランティア団体への広報、広報誌・ケーブルTVなどの活用、そして口コミなど、あらゆる方法で広報し提供会員増員に努めます。最近では、**多種多様な依頼内容や対応が難しいケース**が多く見受けられます。また虐待などに関する恐れのある事案も考慮し、依頼内容の聞き取りやマッチングなどは、より丁寧に慎重に行ってまいります。双方の会員が尊重しあい、気持ちよく活動してもらえるように、研修で得た知識や経験を糧とし、継続的な努力を重ねてまいります。

(1) **交流イベントの開催**

会員同士の交流や親子の交流、情報交換の場として交流イベントを開催します。**この間、提供会員同士の茶話会的なものも実施**され、日ごろのサポートの悩みや提供会員としての喜びなどを共有できる場を持つことが出来ました。2026年度も提供会員に向けての交流会も積極的に開催します。

「あい♥あいファミサポフェスティバル」の開催

2026年度は、財団設立30周年に合わせた企画を検討します。
秋ごろ開催予定

(2) **会員講習会**

安心してサポートするために必要な技術や知識を習得するための講習会を開催します。従来通り、**年間5回5ヶ所での開催**となり、会員は、いつでも、どこでも何回でも受講で

きます。また、阿南会場では zoom を用いてハイブリッド方式で、吉野川市では土曜日や日曜日に開催することで、**受講しやすい環境**を整えています。

開催地	日程	備考
藍住町	6/10～6/25	
吉野川市	7/11～8/8	土曜・日曜日開催
阿南市	9/4～9/25	zoom 同時開催
美馬市	11/5～11/19	
徳島市	1/18～2/5	

(3) ファミサポ機能強化事業の対応

ファミサポの**依頼内容は多様化**してきており、様々な困難を抱えるこどもや家庭に対応できることが求められています。

提供会員の資質向上に向け、アドバイザーと共にレベルアップを図ります。

①病児・病後児預かり研修

引き続き、医療アドバイザーとして徳島県小児医師会・全国病児保育協議会徳島県支部長の田山チャイルドクリニック田山正伸院長に依頼し、**エクストラ会員になるための専門的な講習会を実施**します。

②エクストラ会員（E 会員）交流会&研修会

病児・病後児預かり7・5時間研修を修了した**エクストラ会員（E 会員）を対象にフォローアップ研修**を開催するとともに、会員間の意見交換会を開催し、スキルアップに努めます。

③アドバイザー等レベルアップ研修

2026年度も資質向上を目指し、計画しています。

- a) 防災に関する研修会
- b) 性被害防止についての研修会

④ファミサポネットワーク連絡会

年2回、各市町村の担当課担当者ファミサポアドバイザーが一同に会し、連携を図ると共に、ファミサポの機能強化や課題について協議し、情報共有を行います。

⑤オンライン登録の推進

出産後、出歩けない親や交通手段のない会員のためにオンラインでの登録を進めます。ホームページ上で、サポートの様子や登録の仕方を動画などで説明し、一目見てわかりやすいように努めます。そのうえで、入力フォームや書類のダウンロードなども可能にし、入会のハードルを下げることで登録しやすい環境を整えます。

(4) ファミサポプラス

今、子育てを取り巻く環境は大きく変化し、サポートの内容も多岐にわたっています。そこで、行政へ向けて、育児支援だけでなく、簡単な**家事も加え「ファミリーまるごと支援」としたファミサポの新たな支援の形**の実施に向けて提案を続けます。

(5) ワンストップサービスの構築

「子育ての問題」は様々な要因が幾層にも重なっており、多方面からの総合的な支援が必要になってきます。そこで、**今まで培ったネットワークや知識、ヒヤリハットなどデータベース化し可視化**する仕組みづくりを強化します。個々の知識や知見を共有することで、組織全体のレベルアップにつながります。

(6) 他事業との連携によるシナジー効果

■ファミサポ会員特典としての「くーぽん丸。会費割引」

ファミサポ会員になることで、通常 770 円の会費が 570 円で利用可能です。

■あわ～ず会員への利用補助

あわ～ず徳島の会員サービスのひとつに「ファミサポ利用補助」があります。2026 年度も引き続き利用促進に向けて働きかけを行います。

(7) 子育て困窮者への支援

① ファミサポ利用支援子育て基金

ファミサポを利用したくても、経済的な理由により利用を控えざるを得ない家庭を支援するために創設した「ファミサポ利用支援子育て基金」です。2024 年度から交通費も補助をすることとなったため、より使いやすくなりました。経済的な理由からファミサポ利用を諦めていた家庭に対して、少しでも子育ての支援の手が届くよう努めてまいります。

② ファミサポ利用補助の実施

2018 年から阿波市では NPO 法人からの寄付により、ファミサポ利用料金が 200 円オフで利用できるようになりました。2 年後美馬市でも同様のサービスが展開されるようになりました。そのような中、2022 年から海陽町では行政の補助が入り、依頼会員のみならず提供会員の補助も始まりました。

現在は、市町村ごとに利用補助内容も違いますが、財団の委託するすべてのファミサポにおいて利用補助が叶いました。今後できる限り統一できるよう行政当局に提案を続けてまいります。

2. 子ども預かり事業

● パーク テレコメディアこども室



運営 5 年目を迎え、これまでの実績を礎としつつ、利用者ニーズに基づいた支援の質的向上に努めてまいりました。利用件数そのものは決して多くはありませんが、一件一件を大切に対応することを積み重ねてきました。利用者の声をもとに、スタッフが同じ目線に立って「必要とされるもの」を形にすることを心がけるとともに、ファミサポや子育て支援センター、行政機関と連携し、**切れ目のない子育て支援**を行っています。その結果、利用者との信頼関係が着実に深まり、**SNS や口コミの効果によって新規利用者やリピーターが増加**しています。日々のささいな相談にも丁寧に応じることで、地域における安心感のある場づくりにもつながりました。

来年度は、JV（共同事業体）と連携し、さらなる利用の幅を拡大し、こども室のよりよい運営体制の構築と、質の高いサービスの提供を目指します。

● 子育てひろば「一時預かり事業」(吉野川市)

0歳から3歳までの大切な時期をお預かりする託児を通して保護者が心から安心して子どもを託せる場をつくってきました。実際の託児の様子を開かれた形で伝え、見て、感じて「ここに預けてみたい」と思ってもらえるように信頼を積み重ねています。一人ひとりの育ちに丁寧に向き合い、温かな関わりを続けることで自然とリピーターが増え、件数も増加しています。「子育て応援クーポン」の活用も大きく影響しています。また、ファミサポとの併用をお伝えし、保護者がまとまった時間を使えるようおすすめしています。保護者に寄り添う存在として、子育てを支える一助であり続けてまいります。

● 海陽町未就学児預かり事業

2017年度より海陽町において、保育園を卒園する未就学児を対象に**春休み預かり事業**を実施しています。2026年度も引き続き実施する予定です。

小学校入学を見据え、生活リズムの安定を図るとともに、学習への準備として座って集中して取り組む活動を取り入れるなど、活動内容の充実を図ります。子どもの発達段階に応じた関わりを大切に、安心・安全な預かり支援の提供に努めます。

● 出張託児「きらり」

2日間にわたる全国大会での大規模託児をはじめ、**県・市議会の会期中における託児**、月1回の定期的な会合へのスタッフ派遣など、多様な場面での託児需要に対し、柔軟かつ確実な対応を行ってきました。さらにファミサポとの協力体制を深めたことで、**約40名の登録スタッフの増員を実現**し、受入れ体制を質量ともに向上させることができました。今後は、個々のスタッフの専門性を高めるとともに、幅広い年齢層や多様な環境下においても質の高い託児を安定して提供できる体制の構築を目指します。

● 託児付き講習会の実施

ファミサポ講習会や再就職セミナー等における託児活動は、提供会員が日頃の研修成果を発揮する重要な実践の場として定着しています。この取り組みは、受講する保護者にとって「安心して自身の将来や学びに集中できる貴重な機会」であると同時に、**提供会員にとっては、複数名で協力して託児にあたることで会員同士のネットワーク構築や情報共有の場**にもなっています。1対1のサポートにはまだ不安があるという提供会員にとっても、チームでの託児経験が大きな自信となり、その後の単独サポートへ踏み出す強力なバックアップとなっています。次年度も、利用者のニーズに応える託児環境を継続して提供し、子育て世代の自己実現を支えるとともに、提供会員のスキル維持と意欲向上を図り、地域全体で子どもを育む機運を高めてまいります。

3. 地域子育て支援拠点事業



財団では徳島県内5箇所で**地域子育て拠点の運営**をしています。子育て中の家族が気軽に遊びに来れる居場所となり、育児不安の解消につながります。また、ファミサポを併設することで、預かりやすく預けやすい環境を整え、地域で支える子育ての手本となるよう事業を行います。

● 美馬市子育て支援センターみらい(美馬市)

毎月実施しているイベントや製作コーナーは来所親子から好評をいただいております。今年度

新たに保護者向けに企画したマッサージもリピーターが増えています。親子で安心して過ごせる場、保護者同士が交流できる場、そして日々の生活を懸命に支える保護者自身の癒しの場としての役割も求められていると感じております。引き続き、利用者から寄せられる悩みや要望を丁寧に受け止め、運営の参考としてまいります。

また、来年度も**美馬市子ども家庭センターとの連携を強化**し、市の定期相談を継続実施いたします。**妊婦の方や乳幼児期の親子に早い段階から足を運んでいただく**ことで、みらいのスタッフや館内の雰囲気を知っていただく機会につながりました。「また来たい」「楽しそう」と感じていただけるよう、安心・安全な環境づくりを原点として、今後も継続して取り組んでまいります。

● 海陽町地域子育て支援センターあのね（海陽町）

子育てに不安を抱える家庭や、産後うつ傾向が見られるご家庭が増えている現状を踏まえ、気軽に相談でき、必要に応じてファミリー・サポート・センターの利用につなげられる場づくりに努めます。**2025年度出生児の新規登録が少ない中、BP1プログラムをきっかけにできた仲間とともに、支援センターに定期的に通われるご家庭も多い**ため、今年度も**BPプログラム開催に向けた参加者の勧誘**に努めます。あわせて、保健師の紹介による妊娠期の見学者も増えていることから、妊娠期から利用しやすい雰囲気づくりやイベント内容の工夫を行います。

● 阿波子育て支援センターあおぞら（阿波市）

地域住民や関係機関とのつながりを大切にすることを目的に、各種共催イベントを実施しました。むすびまつりや図書館まつりでは、あおぞらの設置場所であるあわむすび地域の各施設と連携し、市内外の多世代の方々を迎えて交流を深めることができました。あおぞら**開所5周年記念事業**では、これまでの歩みや活動内容を掲示し、あわせてキャラクターショーを開催することで、幅広い来場者にあおぞらの取り組みを周知する機会となりました。今後も各種講習会や相談会、交流会を継続的に実施し、積極的な情報発信に努めることで、多くの方に足を運んでいただき、楽しみながら子育てができる環境づくりを支援してまいります。また、日常のあおぞらでの時間を大切にし、来所される親子が安心してゆったりと過ごせるよう、誰もが「少し行ってみよう」「また訪れたい」と感じられる、居心地の良い温かい居場所づくりを目指してまいります。

● 吉野川市子育て支援センターちびっこプラザ（吉野川市）

たくさんの親子に安心して遊びに来てほしいという想いと、親子同志や地域とのつながりを育む「居心地のよい居場所作り」を目指してきました。リトミックやマッサージなどママからの意見を反映したイベントを開催したり、**栄養相談や歯科相談など、子育ての悩みや不安を気軽に相談できる環境を整え**てきました。11月には「市民プラザふれ愛フェスティバル」の実行委員として企画・運営しました。人と人、地域と地域をつなぎ、地域活性化にも寄与できたと思います。このことは、地域に根ざした子育て支援としても意味があったと思います。また、水曜日限定で市外の親子が利用できるようになってから1年たち、このことが浸透して、より多くの親子が来館されることになりました。市内外の交流がますます深まっています。スタッフが一人ひとり寄り添い、心の支えとなる存在となってきています。安全への配慮を十分に心がけ、すべての親子が安心して過ごせるように努めてまいります。

● 徳島市親子ふれあいプラザ（徳島市）

親子で一緒に遊び、楽しむことができる講座や交流イベントを開催することで、来館者の日常生活にメリハリが生まれ、リフレッシュにつながっているものと考えております。また、助産師、作業療法士、管理栄養士、薬剤師などの専門職を講師として招き、子育てにおける孤立感や不安の軽減に寄与してまいりました。

来年度も、親子が安らぎと充実感のある時間を過ごせるよう、利用者の関心やニーズを踏まえたセミナーやイベントを企画・実施してまいります。特に、人気の高い誕生会や制作遊び、お話とお歌の時間については、内容をさらに工夫し、より魅力ある取り組みとして充実を図ってまいります。

あうんじょ（オンライン子育て広場）では、新たな講座内容を実施したいと考え「おうた広場」と名付けたおはなしとおうたの時間を計画しました。プラザに来たことがない親子にどんな雰囲気なのかを知ってもらい、足を運んでみようと思えるよい機会となりました。昨年同様、プラザで講座を開催して下さった先生の協力を得て、動画撮影をしたものも視聴頂きました。自宅でいながら気軽に参加できるオンライン広場に、誰もが気軽に利用してもらえる体制を整える為、これからも定期的に開催していきます。

4. 学童保育事業



勤労者が仕事と子育ての両立ができるよう、切れ目のない子育て支援事業の推進に向け、2025年5月に、有識者、学童保育関係者、労働関係代表者、社会保険労務士などの方々に組織する「徳島市の学童保育の充実をめざす会」を立ち上げました。会では、徳島市内の学童保育クラブの実態調査や先進地視察を実施し、その活動報告を含め、市民や関係者みなさんの学童保育への理解を深めるため、2026年1月にはシンポジウムを開催しました。また、2026年4月から開所予定の学童保育クラブの開設準備支援を行いました。今後についても、学童保育の充実をめざし、子どもたち、保護者、放課後児童支援員のみなさん、そして地域にとってより良い“四方よしの学童保育づくり”をめざし取り組みを進めてまいります。



2026.1.25 徳島市の学童保育～シンポジウム

5. 次世代支援事業

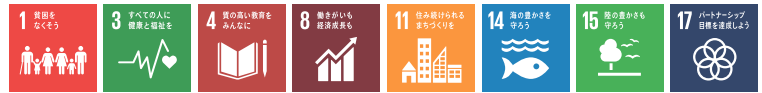
● 赤ちゃん授業事業



本年度、県内各地の小・中・高等学校において本事業を実施し、多くの児童・生徒が赤ちゃんとその保護者との温かな交流を体験しました。この体験を通じて、性別を問わず多くの子どもたちが育児を「遠い将来のこと」ではなく、自分の未来に関わる身近なこととして捉え始めています。特に男子生徒においては、育児の実際を肌で感じることで、将来父親として育児に関わったり、育休を取得したりすることを、自然な選択肢の一つとして受け止める意識が育まれつつあります。

こうした「命の尊さ」や「共に支え合う心」を育む機会を絶やすことなく、次年度も地域全体で次世代を温かく育てていくための環境づくりを継続し、全自治体中学校での「赤ちゃん授業」実施と地域交流の促進を図ります。

Ⅲ. ライフサポート



1. とくしまマリッジサポートセンター



(1) 結婚サポートのより一層の充実に向けて

2016年7月31日に開設したマリッサとくしまは、**来年度10周年**を迎えます。10周年記念キャンペーン、記念イベントなどを通じて、次の10年へ向けた取り組みを進めます。ますます深刻化する少子化、未婚化、晩婚化、時代の変化にともない、**たえず会員のニーズに応えること**、そのために可能な限り会員拡大に努めること、そのことが、カップリング数、成婚者数の増加に結びつくよう努力します。また、カップルをサポートする阿波の縁むすびサポーターの地域単位での組織化、会員の利便性を高める営業時間の検討、また、**応援・協賛企業・市町村との連携をはかりやすい勤務シフトの検討**など、引き続きサービス向上に向けた取り組みに努めます。

2026年1月末時点での実績

- ・マッチング会員数：709人
- ・マッチングカップル成立組数：159組
- ・イベントユーザー会員数：4,242人
- ・イベントカップル成立組数：110組
- ・成婚組数：195組

(2) サポーターの拡大と育成

「阿波の縁むすびサポーター」は、マッチングやイベント時の立ち会い及び交際フォロー等をボランティアで行っています。しかし、サポーターの数、スキルなどの課題から、イベントや交際フォローなど、**本来サポーターが行う役割の一部を職員が担っているのが実情**です。この間、サポーター研修や交流会を通じて、**サポーター主導によるイベントの企画・運営、主体的な広報活動の実施等、徐々に活動の幅を拡大**しています。2026年度も、実働できるサポーターの募集及び登録に**取り組み拡大に努めます**。また、サポーター育成のために、引き続き、**スキルアップのための研修会の開催や、サポーター間の交流を促進し、課題や改善点、優良事例等を共有するため、交流会を開催し、サポーターの育成に努め、サービス全体の向上と、職員の負担軽減に努めます**。

2026年1月末時点での実績

- ・阿波の縁むすびサポーター数：109名

(3) 自治体と応援・協賛企業・団体による連携（結婚支援ネットワーク会議の開催）

「自治体の（婚活）担当者」と「マリッサ応援企業・団体」「マリッサ協賛企業・団体」の3者が参加する「**結婚支援ネットワーク会議**」を**2026年度も開催**します。アフターコロナ社会、そして未曾有の少子化、深刻化する人口減少社会、生活スタイルはもとより価値観も大きく変わってきています。結婚支援のあり方もそれぞれの立場で変化があり、徳島県の各市町村も、この**結婚サポート事業を少子化対策、過疎化対策、地域活性化策**などとしてとらえ、**マリッサの仕組みを活用した取り組みへと徐々にシフト**していくような方向で協議されています。2026年度も徳島の地域社会全体で結婚支援を**協議する場の提供をマリッサが担って**まいります。

また、**結婚支援コンシェルジュ**が中心となって、県内市町村及び企業・団体との連携強化を図ります。**2025年度の実績**として、**各市町村とのコラボイベントの実施市町村数は11市町村（1月末時点）、マッチング会員の会費補助をしている市町村は10市町村**となっており徐々に結婚支援の拡がりを感じています。2026年度も引き続き、連携イベントの開催、訪問等による現状把握・相談受付、各種情報共有、結婚支援事業未実施団体への働きかけ等を行うとともに、技術面・情報面から支援を行います。

(4) マリッサとくしま事業推進連携会議の開催

「マリッサとくしま事業推進連携会議」は、委託元の徳島県と、勤労者福祉ネットワーク（マリッサとくしま）が知恵を出し合い、結婚支援事業の拡充と実績の向上に向け、また、県と財団の連携を軸にスムーズに運営できるよう努力することを目的とし、2018年より、年1～2回のペースで開催してまいりました。2026年も開催し、**サポーターの組織化や営業時間の見直しなど、積み残された課題について協議**します。

(5) とくしまマリッジサポートセンター連絡協議会の開催

「とくしまマリッジサポートセンター連絡協議会」は、**経営者団体、行政機関、労働団体、労働者福祉事業団体、婚活支援団体**等により構成され、とくしまマリッジサポートセンター（マリッサとくしま）の運営及び支援について、また、徳島県における結婚支援活動のさらなる推進を図ることを目的とした協議会です。2026年度はマリッサ開設10周年の節目の年として、構成団体と連携しながら「**徳島の結婚支援を県民運動へ**」をスローガンに事業を推進します。

(6) その他

2026年度も、何でも相談会、出張登録・閲覧会、サポーター研修会、各種セミナー、異業種交流イベント「マリッサークル」の開催など、積極的に取り組んでまいります。

2. 子育て支援員研修



地域の子育て支援における「量の拡充」および「質の向上」を目的とした「子ども・子育て支援新制度」が2015年4月に本格施行され、その担い手となる人材確保のため「子育て支援員研修」が実施されることとなりました。

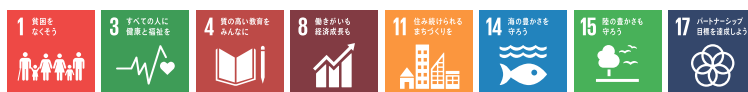
当財団では、制度開始当初から徳島県の委託事業として本研修の企画・運営を担ってきました。2019年度には、55歳以上のシニア世代を対象とした「アクティブシニアコース」を新設し、子育て分野においても元気なシニアが地域で活躍できる機会づくりを進めています。

2026年度も引き続き事業にエントリーし、現場ニーズを踏まえた内容の充実や、受講生が実践につなげやすい研修運営を通じて、より有意義な研修となるよう取り組みます。

3. 保育士等キャリアアップ研修



近年、子どもや子育てを取り巻く環境の変化に伴い、保育所等に求められる役割は多様化・複雑化しており、**保育士にはこれまで以上に高度で専門的な知識・技能が求められています。**保



育現場では、園長や主任保育士等のもとで、職務内容や職位に応じた専門性の向上を図るとともに、職員一人ひとりのキャリアパスを見据えた体制整備が重要となっています。こうした課題に対応するため、徳島県では2017年度より「保育士等キャリアアップ研修」を実施しており、当財団は2021年度から公募型プロポーザル方式により受託し、企画・運営を行ってきました。毎年約1,200名の受講者が主にオンラインで受講し、講義に加え、グループワークや実技を取り入れた実践的な研修を実施しています。

2026年度も引き続き受託をめざし、これまでの実績と課題を踏まえ、より効果的で現場に還元できる研修運営に向けた準備を進めていきます。

4. 女性の活躍推進事業



2015年度から徳島県・徳島市より委託を受け、女性の就労支援・活躍推進を目的とした事業を継続的に実施してきました。2024年度からは徳島市のみ委託となり、**ヒューマンスキル向上と就労に直結する実務的なパソコン講座**を組み合わせた内容へと刷新し、より実践的な企画運営を行いました。2026年度もこれまでの実績を踏まえ、講座実施にとどまらず、受講後の不安や課題に寄り添いながら、就職・再就職につなげる伴走型支援を強化していきます。

5. コミュニティビジネスセミナー



2015年に徳島市の委託事業としてスタートした「コミュニティビジネスセミナー」は、2026年度で12回目の開催を迎えます。地域課題の解決に向けて起業を考えている人や、コミュニティビジネスに関心のある人を対象に、継続的に実施してきました。セミナーでは、**県内で活躍する先駆的な実践者を講師として招き、先進事例を学ぶとともに、ワークショップ形式**を取り入れることで、参加者自身の起業に向けたビジョンの明確化や、志を同じくする参加者同士の仲間づくりの場としての役割も担っています。また、**2021年度から導入したグラフィックレコーディングによる内容の可視化**は、学びの整理や理解促進につながる手法として参加者から高い評価を得ています。

2026年度もこれまでの成果を踏まえ、より実践的で地域に根付いたセミナーとなるよう、引き続き実施に向けた準備を進めていきます。

6. ハートフルゆめ基金とくしま



ハートフルゆめ基金とくしまは、地域の課題に向けて取り組むNPO等を支援するために設立され、**2024年に10周年**を迎えました。2025年度には10周年記念交流会を開催し、これまでの歩みと今後の展望を県内NPOの方たちと一緒に共有しました。

今後は、**休眠預金を活用した助成事業や、NPOと連携した遺贈寄付の推進を通じて、寄付文化の醸成に向けた取り組みを一層強化**していきます。

(1) ハートフル社会貢献基金

2020年度、2021年度の「新型コロナウイルス対策緊急支援」を契機として開始した助成事業は、2022年度に「ハートフル社会貢献基金」として継続し、これまで4回の助成を行っ

てきました。

2026 年度も 5 月募集に向けて準備を進め、地域課題解決に取り組む団体への支援を継続します。

(2) 休眠預金の活用

休眠預金とは、「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律（休眠預金等活用法）」に基づき、2009 年 1 月 1 日以降の取引から 10 年以上にわたり入出金等の取引がない預金等（休眠預金等）を、社会課題の解決や民間公益活動の促進に活用する制度です。本制度は 2019 年度より開始されています。

財団としては、2025 年度より、資金分配団体（休眠預金等に係る資金を原資として、実行団体に対し助成・出資を行う団体）としてのエントリーに挑戦しています。

2026 年度は資金分配団体として活動できるように、体制整備とスキル向上に取り組みます。

(3) 遺贈寄付の充実

2022 年度に「全国レガシーギフト協会」に加盟し、2023 年度は講師を招き研修を実施しました。遺贈寄付は故人の最後の想いを社会に届ける大切な仕組みであり、制度やそれに伴う規制等について正しい知識を持つことが求められます。関係 NPO や土業とのネットワークを活用し、遺贈寄付の相談窓口として機能できるよう準備を進めていきます。

また、NPO 法人 ALIVE LAB と「遺贈寄付に関する連携協定」を締結し、セミナーや交流会を共催で開催します。今後も連携を強化するとともに、担当者のスキル向上と制度の周知に努め、遺贈寄付につながる取り組みを継続して進めてまいります。

(4) 円卓フォーラムの開催

テーマを設定し、NPO や市民活動団体、一般市民などを対象とした対話の場として、年 1 回または必要に応じて開催し、地域課題解決に向けた議論の機会を創出します。



2026.1.26 第 11 回円卓フォーラム

(5) お宝エイドでの寄付募集

2025 年度に四国で初めて「お宝エイド」に参画しました。この仕組みは、寄付者が家庭で不要になったハガキや切手などの物品を着払いで郵送することにより、換金された金額に 10%が上乗せされてハートフルゆめ基金とくしまへ寄付されるという仕組みです。これまでは現金だけの寄付受付でしたが、家庭に眠る物品による寄付が可能となったことで、より気軽に寄付へ参加できる環境が整いました。今後は、この仕組みの周知を図るとともに、寄付の裾野を広げる取組を進め、基金の安定的な財源確保と市民参加型の寄付文化の醸成につなげます。



(6) 全国コミュニティ財団協会との連携

2023年度に加盟した全国コミュニティ財団協会は、市民の主体的な地域社会の課題解決を促し持続可能性を高め、公共の利益を増進することを目的としており、財団の事業主旨とも合致しています。全国コミュニティ財団協会が開催するセミナーや研修会へ積極的に参加するとともに、**全国の他のコミュニティ財団との交流を通じて知見を深め、基金運営や助成事業の充実につなげます。**

(7) 寄付をしやすいシステムの活用

①くーぼん丸。

くーぼん丸。冊子とアプリで寄付つき広告を募集し、その1/2を「ハートフル社会貢献基金」として充当しています。「くーぼん丸。2025」では**14団体から寄付がありました。**また、アプリでは随時広告ができることから、更なる寄付募集に努めます。

②ファミサポ

各ファミサポではリユースの持ち帰りやイベントの際に**募金箱を設置**して寄付を募っています。美馬市子育て支援センターみらいでは、仕掛け貯金箱を設置するなど、楽しみながら寄付ができる仕組みを作るなど工夫を行っており、今後は他のファミサポや子育てひろばでも取組を広げていきたいと考えます。

③エシカル消費を通じた寄付

阿波市で始まった**共助共生の仕組み**が他市町村においても行政からの補助開始に繋がりました。美馬市では残金を市の補助金に繰り入れ今後の助成に活用することとなりました。一方、阿波市では行政の補助は提供会員のみが対象で、依頼会員への補助がないことから、引き続き**NPOからの寄付を活用し、利用者全員がワンコインで利用できるように支援**を行います。

④マンスリー寄付やインターネットバンキングを利用した寄付のシステム作り

Syncableの審査が通り、**2025年度から運用を開始**しています。課題であった5%の手数料も概ね利用者の理解が得られており、今後は、**クレジット決済やマンスリー寄付の周知を進めます。**また、PayPayなどの利便性の高い新たな決済手段についても検討を行います。

⑤ボランティア活動

ボランティア活動は支援の一つの形であり、財団や助成対象団体でのボランティア活動を通じて、その事業への理解を深めてもらい、将来的な寄付や継続的な支援へと繋げてまいります。

(8) 人材育成

複数体制で事業を担当することとし、NPO等に向けて丁寧で継続性のある基金運営に努めます。また、関係機関が開催する研修やセミナー等へ積極的に参加し、担当者の知識・スキルの向上を図ります。これらの取組を通じて、基金事業の安定的な運営と質の向上につなげてまいります。

7. つながり文化交流室



ユニバーサルカフェの原点に立ち返り、外国人や障がいのある方を含む、誰もが気軽に訪れ交流できる場づくりを推進します。県内在住の外国出身の方々が「徳島を選んでよかった」「もっと徳島が好きになった」と感じられるような交流の機会を提供し、日頃の思いを語り合い、互いを理解し合い、つながりを育む場を創出していきます。

また、徳島県国際交流協会（TPIA）、JTM とくしま日本語ネットワーク、ワーカーズコープ、NPO 法人眉山大学など、地域の関係団体と連携し、以下の事業を実施します。

(1) 外国人総合相談ダイヤル（外国人相談室）の運営

生活・仕事・教育など、外国人住民が抱えるさまざまな相談に対応し、安心して暮らせる環境づくりを支援します。

(2) 交流会の開催

多文化理解と地域とのつながりを深めるため、以下のテーマで交流会を実施します。

① ゲストスピーカー交流会

外国出身の方を招き、母国の文化や生活について話を伺いながら交流を深める。

② 日本の伝統文化体験交流

おもちつきなど、日本の伝統文化を体験しながら相互理解を促進する。

③ 徳島の魅力再発見交流

ひょうたん島クルーズ乗船体験など、徳島の魅力に触れる活動を通じて地域への愛着を育む。



2025.12.7 第36回つながり交流会（おもちつき体験）



8. 総合相談ダイヤル

NETWORK 総務部

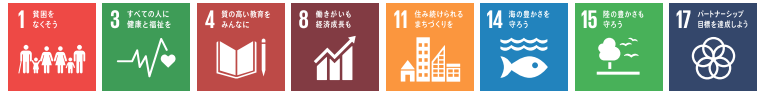


中小企業サポート部



ライフサポート部

2024年度より、『心の健康・相談室フォー・ユー』に加え、『働き方なんでも相談室』および『ユニバーサルカフェ（つながり）外国人相談室』を統合し、総合相談ダイヤルとして新たに相談事業を開始しております。広報面においては、財団機関誌による情報発信に加え、徳島新聞「情報とくしま」への掲載など、地域に広く届く媒体を活用し、相談窓口の認知度向上に努めてまいります。また、公的機関や専門家との連携を一層強化し、相談者一人ひとりに寄り添いながら、適切な支援へと確実につなげられる体制の充実を図ってまいります。



IV. 収益事業

1. くーぽん丸。(収益事業1)



(1) くーぽん情報の充実

ここ数年、物価高騰や賃金の底上げなどの影響が長引き、閉店やサービスの廃止をする店舗が増えたことにより、**掲載店舗数が減少**しています。再度、新規店舗や過去に掲載していた店舗などに呼びかけ、**店舗拡大に向けて鋭意努力**します。

(2) あんしん情報サイトの充実

くーぽん丸。の2本柱（「割引くーぽん」と「あんしん情報」）の一つである「あんしん情報」について、ニーズに合わせた**最新の情報にアクセスできる「あんしん情報」**をめざして新たな情報の提供に努めます。



(3) スマホアプリの充実

あわ～ず徳島より一足早くアプリ化された「くーぽん丸。」。「売り手よし、買い手よし、世間よし、未来よし」の「四方よし」を目標に、地元商店の活性化と消費者の可処分所得の増加、生活の安心の提供を目的として、取り組みを進めています。現在31,377ダウンロード(2026年2月27日現在)を達成し、今後は徐々にアプリへの移行を増やしていきたいと考えています。また、2026年4月からのあわ～ず徳島スマホアプリの開始にあたり、連携しながら、より良いサービスを提供するために、今後も、技術的、財政的な課題に対応しながら、魅力的なコンテンツになるよう努めます。

(4) 寄付つき広告

2018年度版からスタートした「寄付つき広告（広告料の50%をハートフル社会貢献基金に寄付）」も2026年度版で9回目となります。2022年度からは冊子とアプリ両方での広告も可能になりました。そのことにより、年間を通じて広告を受けることが可能です。今後も引き続き、県内の「社会貢献活動」に関連性のある企業・団体も対象に、寄付の協力を要請します。

(5) 他事業との連携策の構築について

本誌やアプリ、ホームページ、SNSなどを通じて「あわ～ず徳島」や「ハートフルゆめ基金とくしま」、「ファミリー・サポート・センター」、「マリッサとくしま」などの情報、イベントなどを積極的に配信し、4万人強の会員にアクションできる機能をフルに活かし、財団の広報はもとより、他事業との積極的な連携をはかります。

(6) SNSの活用

公式LINEやInstagram、アプリ内お知らせで情報を発信しています。今後も店舗情報からのお知らせや店舗のお得な情報、あんしん情報などについて、SNSも活用したタイムリーで積極的な情報発信に努めます。

2. 賃貸事業（収益事業2）

NETWORK 総務部

当財団が所有する徳島県労働福祉会館に併設する土地を**駐車場**として賃貸しています。引き続き財産管理の安定した運営につとめることとします。

3. 指定管理事業（収益事業3）

NETWORK 総務部

2026年度も、両施設が「いつでも、どこでも、だれでも」が利用できる「多世代交流の場」として、いろんな世代の人々が集い交流できる三好市の一つの拠点として定着できるよう引き続き努めます。また、2施設の利点を活かしつつ、連携しあうことでコストの削減、人的作業効率のアップを図ります。

（1）健康とふれあいの森

人気遊具の一部使用禁止という制約はあるものの、施設の良好な維持管理と丁寧な接遇、SNS等を活用した積極的な情報発信を強化し、公園訪問者数月平均1,500人、有料施設利用者数月平均200人、年間利用収入400万円の達成を目指します。

また、芝生管理や遊具の定期点検、園内設備の修繕、樹木の剪定や植栽管理、草刈り等を計画的に実施し、**安全で快適な公園環境を維持**します。さらに、電気・消防設備や給排水設備、遊具の保守点検を徹底し、事故防止と安心して利用できる環境づくりを継続してまいります。

（2）三好市ふれあい紅葉センター

ふれあい紅葉センターは、燃料の高騰、施設の老朽化など課題は山積していますが、来年度も安定した管理運営をめざします。2026年度は、利用者数55,000人の水準を目標に掲げ、施設の適切な維持管理の徹底、職員の丁寧な接遇、**SNS等を活用した積極的な情報発信**により、地域に愛され選ばれる温泉施設を目指します。

また、温泉・厨房・各種設備における**衛生管理および保守点検を計画的に実施**し、安全・安心を最優先とした運営に努めます。日常清掃や水質管理、定期検査の徹底に加え、専門業者による設備点検や庭園整備を通じて、快適で清潔な環境を維持し、来訪者が心からくつろげる空間づくりを継続してまいります。

（3）三好市三野町に生誕の地 戦国天下人・三好長慶

「戦国天下人・三好長慶をNHK大河ドラマに！」協議会構成団体として、PRに努めます。三好長慶だけでなく、徳島県の自然や歴史文化などを発信し、文化・観光振興、地域経済の活性化を応援してまいります。



紅葉温泉休憩室の長慶の鎧兜



2025.11.2 三好長慶武者行列祭り（三好市）